

## 《学術セミナー報告》

### 「What is Teaics ?」

科学分析支援センター 藤原 隆司

科学分析支援センター主催の学術セミナーを令和元年12月18日(水)に科学分析支援センター3階会議室にて行った。大韓民国の西原大学校(Seowon University)元教授の Byunggun Park 先生(International Society on Tea Science)をお迎えし、表題の演題でご講演をいただき、国内の研究者、学内の教員、院生、学部生を含む15名の参加者があった。Park 先生は、お茶は他の飲料とは異なり、茶文化、茶の作法、茶会、茶道など非常に古い文化的な背景を持つことから、「Teaics」(tea, お茶と「～学」を表す ics を組み合わせた、茶学と訳すべきであろうか)という言葉が使われて、文化的、科学的な多方面からの考察、研究をされている。茶学はお茶すべてに関わる学問であり、その定義はお茶の成分などの科学的な観点に加えて、お茶の道具である茶器や作法などお茶に関連する文化なども含み、それらに関する論理的かつ客観的な知識体系としてそれぞれを関連付けて議論することを目指している。特に、2004年に静岡で開催された International Conference on O-CHA(tea) Culture and Science(国際 O-CHA 学術会議, ICOS)の際に、teaics の概念について発表され、膨大な量のお茶のコンテンツから得られた情報や知識を整理し、理論的に体系を構築し、他の研究との1対1の連携を図ることを目指すものであると解説された。今回はお茶の香り成分を研究されている理学部基礎化学科の長谷川登志夫先生のとのご関係で、お茶に含まれる香り成分のみならずその周辺の文化的な観点から「What is Teaics ?」(茶学とは何か?)という内容で講演をしていただき、参加者と時間の経つのを忘れて様々な議論を行った。



ご講演中の Park 先生